

フォトマッチインカレ 2018 (PMIC2018) 実施要項

1 大会名称

本大会を「フォトマッチインターカレッジ 2018 大会 (略称 フォトマッチインカレ 2018 PMIC2018)」と称する。

2 主催

フォトマッチインカレ実行委員会

(株) 日本写真企画 (月刊『フォトコン』誌)

(株) 風景写真出版 (隔月刊『風景写真』誌)

産業能率大学 経営学部教授 水島章広(実行委員長)

3 会期

撮影

2018年8月25日(土)～2018年9月7日(金)

撮影場所は第6項で指定する。

大学対抗選会場

2018年9月8日(土) 10時～18時

東京都板橋区立文化会館 小ホール

4 参加資格

4.1 四年制または六年制大学で、大学公認の課外活動団体(公認であればクラブ、同好会、サークルいずれも可)またはゼミであること。1校からの参加は1チームに限る。ただし複数の団体やゼミで調整して代表1チームを可能とする。

4.2 参加するプレイヤーは参加名義の大学に学籍がある者に限る。また雑誌に氏名が掲載されることがあるので承諾できること。

4.3 主催者との緊急連絡先が確保できること。

4.4 8月4日におこなうルールミーティングに少なくとも1名を代表者として出席が可能であること。

4.5 撮影期間(8月25日～9月7日)のあいだに第6項で指定する撮影指定場所のどこかで撮影が可能であること。

4.6 大学対抗選当日(9月8日)に参加申し込みをしたプレイヤー全員が会場に来ること。

5 大会の概要

5.1 【チーム組み】

各大学で5人1組のチームを組み、キャプテンを1名選出する。

5.2 【参加申し込み】

申し込み締め切り日（5月20日）までに主催者にチーム（5名）の参加申し込みをおこなうこと。なお大学対抗選前日の交代は2名まで認められるので予め補欠を2名選定しておくことが望ましい。

5.3 【予選】

参加申し込み校が16校を超えた場合、予選をおこなう。予選は参加申し込みをした5名のプレイヤーの風景作品3点ずつ計15点を主催者がネット上に用意したフォルダに提出する。提出する作品は風景であれば（第7項を参考に）時期、場所を問わない。

主催者は作品審査の後、予選結果を各大学に通知する。

なお2017年大会で3位以上の大学（立教・早稲田・工学院）は予選を免除する。

5.4 【トーナメント抽選】

8月4日におこなうルールミーティングでトーナメント抽選をおこなう。なお参加校が16校未満の場合、2017年大会で3位以上の大学（立教・早稲田・工学院）を順にシード校として扱い2回選からの參選とする。

5.5 【撮影】

撮影会の会期中に指定された地域で風景写真を撮影し、ひとり4点の作品を選定してチームで合計20点の作品をデジタルデータ(JPEG形式)で主催者がネット上に用意したフォルダに作品提出期限の2018年9月7日19時まで提出する。ただしシード校となり2回選からの參選の場合はひとり3点、チームで合計15点の提出とする。

5.6 【大学対抗選の内容】

2チーム(大学)が対選する1単位を「マッチ」と呼び、マッチのなかでおこなわれるプレイヤー個々の対選を「ゲーム」と呼ぶ。ゲームでは、キャプテンを中心に相談して5人のプレイヤーのなかから1作品を選ぶ。次にこの作品は司会の「オープン」の掛け声とともに相手の大学が選んだ作品と同時にスクリーンに映し出される。これを3人のジャッジが紅白の旗を上げて判定し、2人以上の旗が上がったプレイヤーが勝ちとなる。このとき3人のジャッジは双方の作品に対してコメントをする。

このマッチで先に3勝したチーム(大学)が勝ち残り、トーナメントをすすめる。

第1回選のみ、いちどのマッチごと5ゲームをおこなうが、第2回選以降、決勝選まではどちらかのチームが先に3勝した時点でマッチを終了する。

なお一度使用した作品は次のゲームには使えない。またいちどのマッチでは1人

1 作品しか使えない。したがってどのプレイヤーの、どの作品から使うのかがキャプテンの采配となる。

なお決勝選のまえに3位決定選をおこなう。3位決定選には、準決勝選に敗退したチームのほか敗者復活として決勝選にすすんだチームと1回選で敗退した2チームを加える。

5.7 【大学対抗選の出場プレイヤー】

予選をおこなった場合、予選に作品を提出したプレイヤーが出場すること。やむを得ず交代する場合は2名までとする。交代が3名以上になったチームは失格とする。交代の申し出は作品提出期限の9月7日19時までとする。

9月8日の大学対抗選は5名が出場すること。やむを得ず欠場する場合は最大2名までとする。欠場が3名以上になったチームは失格とする。欠場したチームは残りのプレイヤーで競技を進行する。このとき残存のプレイヤーは以下5.7.1～5.7.3に従い自己の作品から選択し欠場プレイヤーの代替作品として使用することができる。なお残存プレイヤーが提出できる作品数は4点であり、欠場したプレイヤーの提出は認められない。

5.7.1 欠場プレイヤーが1名の場合は第5ゲームを、欠場プレイヤーが2名の場合は第4ゲームと第5ゲームに代替作品を使用することができる。

5.7.2 1人の残存プレイヤーが使用できる代替作品は1マッチあたり1点を限度とし、全マッチを通じ2点を限度とする。

5.7.3 代替作品が無い場合、ゲームを不戦敗とする。

6 撮影指定地域

以下の各公園・地域で撮影をおこなう。一カ所で撮影しても、複数の場所で撮影してもよい。撮影はチーム(大学)でまとまった行動でおこなう必要はない。プレイヤーが別々の日時・場所で撮影をおこなってもよい。

以下の指定地域以外に参加チームは撮影地域を一カ所にかぎり8月24日までに主催者に報告のうえ、追加することができる。追加する地域は公園・緑地等、区画が明確な場所のほか、集落等の区域を指定できる。ただし市区町村などの広い行政区は指定できない。追加された撮影地域は主催者が撮影開始日までに他チームに周知し、他チームも追加された撮影地域で撮影することができる。

なお大学対抗選では作品が映し出されるたび、撮影地点(公園・地域名)を告げなければならない。

【入場が有料な公園等】

新宿御苑（東京都新宿区）、浜離宮恩賜庭園（東京都中央区）、小石川植物園（東京都文京区）、六義園（東京都文京区）、旧古河庭園（東京都北区）、昭和記念公園（東京都立川市）、神代植物公園（東京都調布市）、三溪園（横浜市中区）

【入場が無料な公園等】

代々木公園（東京都渋谷区）、上野公園（東京都台東区）、毛利庭園（東京都港区）、日比谷公園（東京都千代田区）、駒沢公園（東京都世田谷区）、等々力溪谷（東京都世田谷区）、井の頭恩賜公園（東京都武蔵野市）、谷津干潟（千葉県習志野市）、埼玉県大宮公園（さいたま市大宮区）、別所沼公園（さいたま市南区）、山下公園（横浜市中区）、神奈川県立四季の森公園（横浜市緑区）

7 作品について

対象は風景とする。風景とは果てしなく広がる世界の中で、撮影者がいる場所から見えている空間、それすべてが風景である。

ただし、競技のルールとして以下の3つ制限を課す。

7.1 演技、演出の禁止

原則として、そこに自然の状態、あるいは恒久的に在るもの、作為ではなく現れたものが対象となる。すなわち作為的ではない、出合った瞬間、見つけた場面を撮ること。例をいくつか挙げる。

好ましくない例

持っていた小物を入れて撮る（撮影する意志を持つ者が画面を作るために作為的に使用したもので、演出にあたる）

対象となる被写体から外れたところから落葉を拾って置いた（自然にあり得る状態を逸脱しており演出にあたる）

落葉を集めて撒いた（きわめて作為的であり、演出以前の迷惑行為である）

許容される例

落葉の方向を少し変えた（演出的ではあるが、自然にあり得る状態を逸脱していなければ許容範囲）

またストロボの使用、夜間の補助的な人工光の照射は、写らないもの、写りにくいものを写そうという努力と工夫であり、これは写真の歴史の中で営々と続けられてきたことであるため許容される。

7.2 人と世界の関わりを撮る

人物を画面に入れる、入れないは自由である。ただし、人物そのものを主題とするのではなく、風景の中の人物、風景と人物の関わりが描かれていること。

7.3 他者の美意識を借りない

建築やショーウインドウ、広告物など、他のクリエイターによる創造物の美に頼らない。それらが入る場合でも、画面から作者独自の創意が感じられること。

7.4 画像加工について

色調、画質調整、白黒変換、輝度やコントラスト調整をはじめとするレタッチ、トリミング、フィルター（光学フィルターおよび画面効果フィルター）等の使用については制限しない。PCでのこれら加工も制限しない。画像合成も制限しない。

* 撮影現場でのベーシックな発見力、表現力が競技の主点である。現実にある世界から美や感動を抽出する写真家としてのベーシックな視点、表現力を問うもので、フォトレタッチは禁止ではないが、写真家の想像力によって映像を創り上げる能力を問うものではない。

* フォトレタッチにより本来そこにはないものを加えない。恒久的にあるものを消さない。

→空缶が写っていたので消した ○（恒久的にあるものではない）

→センサーについていたゴミをレタッチで消した ○

（風景自体に恒久的にあるものではないから）

→ガードレールを消した ×（恒久的に存在する）

→農作業で落ちた藁屑を消した ×（農作業はそこで行われるべき恒久的な営み）

* フォトレタッチにより色彩を調整する ○

→人が現実にある風景として違和感なく美しい、あるいは感情を動かされるかがジャッジの要点である。現実の色彩に近づけることを求めているわけではない。

8 大学対抗選について

大学対抗選の運営は主催者がおこなうが参加大学も運営補助をお願いする。

ジャッジは以下3名とする。

藤森邦晃（月刊『フォトコン』誌 編集長）

石川薫（隔月刊『風景写真』誌 編集長）

中西敏貴（風景写真家）

司会は永原耕治（隔月刊『風景写真』誌 副編集長）がおこなう。
大学対抗選進行は坂本太士（月刊『フォトコン』誌 副編集長）がおこなう。
作品の投影システム運用と記録は産業能率大学 写真部がおこなう。

9 賞

トーナメントで優勝、準優勝、三位になった大学と各プレイヤーに賞状および副賞を授与する。他にすぐれた作品や活動が著しかったプレイヤーに賞を授与する。

10 作品の使用について

提出された作品は両誌へ作者名とともに掲載のほか、同種の競技広報のため Web サイトなどで使用することがある。なお提出された作品は既発表作品とみなし、両誌のコンテストへの応募はできないが、それ以外の使用を制限するものではない。

11 安全の確保

会期中の移動や撮影活動についての安全確保は各自の責任でおこなうこととし、主催者は万一発生した事故や紛争等に対する責を負わない。

12 費用

各大学からの参加費用は徴収しない。ただし撮影場所や大学対抗選への移動費用、公園などの入場料、撮影にかかる材料の費用は各自で負担する。
大会で必要な経費については協賛企業からの協賛金を見込む。

13 ルールミーティングへの出席

本選出場の大学の代表者は8月4日（土）13時から産業能率大学自由が丘キャンパスでおこなうルールミーティングに出席しなければならない。

14 開催までのスケジュール

4月18日 募集開始（風景写真誌、フォトコン誌で告知）
5月20日 募集締め切り
6月10日 予選作品の提出締め切り
7月10日 予選結果の通知
8月4日 ルールミーティング（13時より 産業能率大学自由が丘キャンパス）
ルール説明、中西敏貴セミナー、トーナメント組み合わせ抽選

- 8月24日 プレーヤー名簿提出（提出された氏名は雑誌等で使用される）および追加撮影地域の報告
- 8月25日 撮影開始
- 9月7日 撮影終了、作品提出（19時締め切り）
- 9月8日 大学対抗選開催